

# 不妊治療の保険適用について 懸念されること

中医協 総会  
2021年11月17日(水)  
蔵本 武志  
(一般社団法人JISART理事長)

# 1. 患者さんに及ぼす不利益 その1

- ・保険点数が低く抑えられると、質の高い生殖補助医療が行えなくなる



- ・医療の質が下がり、妊娠率や出産率の低下が起こる
- ・不妊治療クリニックの経営難から閉院が相次ぎ、治療難民が増え、仕事との両立がさらに困難となる

## 2. 患者さんに及ぼす不利益 その2

- 不妊原因は千差万別で、女性の卵巣、子宮の状態、男性の精巣の状態など多様であるため、個々の症状に合わせた、きめ細かい医療が必要



- 保険適用となる標準医療では妊娠できない患者さんが増える
- 公的助成金制度もなくなり、治療費全額を自費で支払うことになり、現在より患者さんの経済的負担が増える

### 3. 患者さんに及ぼす不利益 その3

- 生殖補助医療では妊娠に至らない場合、長期に、繰り返し治療を行う方が多く、都道府県外へ転院される方もまれではない



- 自己申告では間違えることもあり、患者さんが正しく受けられない可能性がある
- (保険診療を正しく受けられるよう、治療回数を客観的に把握できるシステムにしてほしい)